

かつこよすぎる。

—河毛俊作『一枚の白いシャツ 男、45歳からの服装術』

中野香織



演出家でもある河毛俊作による、45歳以上の男のための服装指南である。45歳以上の男とはすなわち、豊富な経験を積み、傷の一つや二つも抱え、自分の顔に責任をもった、「淡いしみ」を理解する人のことである。その条件にかなえば、35歳の男であれ、女であれ、本書を享受する読者としての資格は十分にある。

具体的に何をどう着たら好ましいかという服装指南は、時には60年代映画のワンシーンのように、時にはオフビートな小説の一風景のように、ちりばめられる。だが、それは本書におけるごく表面的な部分である。本書はむしろ、服装術を通して、社会や世界とどのようなスタンスで向き合うべきか、という〈心の構え方〉を指南する。男の服が（女の服もだが）、その人が社会に対していかなる態度で向き合っているのかという表象でもあることを思えば、そのような指南に帰結するのはごく真つ当なことなかもしれない。

本書のもとになったエッセイが「ENGINE」誌に連載中

だった頃、タイトルが「反合理主義的服装術」であったことからわかるように、河毛俊作は、利便性・効率・対費用効果といったグローバル資本主義下での合理性に対し、一貫してささやかな抵抗の姿勢を示す。「45歳すぎの男が服を選ぶ基準は清潔、単純、身体に合ったサイズ、以上だ」と一見シンプルに見える提案をしているが、その提案は、世に氾濫するグローバル資本主義とITがもたらしたもののすべてに対するアンチテーゼでもある。

グロテスクに進化した、「カワイイ」文化。性差も階級差も年齢差も地域差も地ならしされた結果生まれた、若くてキレイで男か女かわからない、国籍不明なコピー人間。目立つが勝ちの激安店の看板を筆頭とする悪趣味の常態化。美意識が崩壊した現代の醜態に対し、クールに抵抗し続け、成熟の必然と必要を認め、死語になりかけている「趣味のよさ」を復活させること。それが、ストイックに白いシャツを着続け、という提案をはじめとする本書のすべての提案に通底し

て感じられる使命感である。勢い衰えぬグローバル資本主義やIT産業が散布する情報相手では、勝ち目のなさそうな戦いであるが、彼はダッフルコートにかこつけて書くのである。「強い男とは、勝つ男ではなく、負けない男だ」と。

情報の洪水のなかで、焦燥に駆られたり流される一方であったりする私たちに必要なのは、まさにこの姿勢であることに気づく。フラット化が進む世界、悪趣味の常態化に対して、「負けない戦い」をやめないこと。ブランドが言う「定番」のウソなど見破る見識をもち、定番とは「自分でつかみとり、作り上げる」ものであるという自信と覚悟をもつこと。さまざまな服装術の指南を通して本書が説き続けるのは、そのような成熟した大人の良識に根ざした「心の構え方」にほかならない。

とはいえ、そんな話が説教くさく押し付けられるわけではない。むしろ、それぞれのアイテムに対して、ロマンや詩を

吹き込む、という手法がとられる。「物語」ひとつで、アイテムの見え方、ひいてはアイテムとのつき合い方が変わることを、書き手は知っているのだ。たとえば靴。「どこの国でも軍人はブーツをピカピカに磨き上げることが要求される。戦闘が終わった後、泥や血で汚れたブーツを磨くことは、今日も生き延びることができたということの証なのだ」。歩くための道具は、戦闘という男のロマンを帯び、戦友となった靴は、「つかみとられた定番」として使い手の心の中で確かな位置を占めるだろう。

巻末に収録された佐藤浩市との対談のなかで、河毛俊作は言う。「男はちゃんと年を取って、しかもどこかで若い人の「敵」でいなければならぬ」。かつこよすぎる。そのため、男性読者の憧れと共感をかきたてると同時に、嫉妬心にも火をつけるかもしれない。

(なかの・かおり エッセイスト・服飾史家)

河毛俊作『一枚の白いシャツ 男、45歳からの服装術』3990円 発売中



2010年
ノーベル文学賞受賞!

チボの狂宴

La Fiesta Del Chivo
マリオ・バルガス・リョサ
八重樫克彦・八重樫山貴子 [訳]

大反響!
忽ち4刷!

1961年5月、ドミニカ共和国。31年に及ぶ専政を敷いた稀代の独裁者、トウルヒーリョの身に迫る暗殺計画。恐怖政治時代からその瞬間に至るまで。圧倒的な大長篇小説。 ●3990円

ウラジミール・
ナボコフ
Vladimir Nabokov

ナボコフ 最後の長篇小説

ローラのオリジナル

The Original of Laura

若島正 訳

●2940円

自筆創作カード全138枚、英文付
ナボコフが遺した138枚の創作カード。そこに記された長篇小説『ローラのオリジナル』。不完全なジグソーパズルを組み立てていくように、文学探偵・若島正が、精緻を極めた推理と論証で未完の物語の全体像に迫る!

作品社

千代田区飯田橋2-7-4/ 価税込
TEL.3262-9753 電話にて宅配可

自費出版のご相談は【作品企画】まで